

# 下田市男女共同参画情報コーナー ハーモニー (第46号)

問合せ先 統合政策課政策推進係 ☎22212  
編集協力 男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会

## 賀茂地域の女性活躍推進シンポジウム

10月3日、市民文化会館小ホールで「賀茂地域の女性活躍推進シンポジウム」が開催されました。

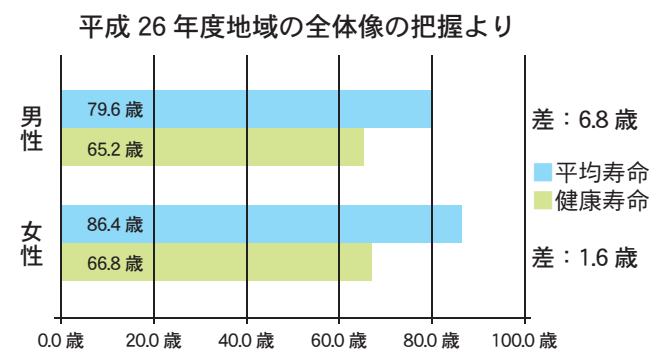
評論家であり、「高齢社会をよくする女性の会」の代表を務め、全国的にも著名な樋口恵子さんにお越しいたいただき、「100年ライフ、女の元気が地域を変える」と題した講演と、「老働力を活かす」というテーマで「伊豆・松崎であり村蔵ら」の代表理事を務める青森千枝美さんをお相手にトークセッションが行われました。



評論家の樋口恵子さん

講演で樋口さんは「憲法・民法・労働法改正で、男女平等は実現したかと思われたが、実は男女雇用機会均等法成立まで、公然と男女差別が許されていた事実があった。ものが変わるのとはとても大変なことだ。」と話されました。樋口さんも実際に、大学を卒業して就職したジャーナリストの仕事を、2年も持たずに辞めてしまったそうです。男性社員と同じ仕事を任せてもらえないなど、職場は女性が長く働く空気ではなかったとのことでした。

また、平成28年に厚生労働省が公表した平均寿命が男性80・98歳、女性87・14歳であったことに触れ、「100年生きる時代が来る」と話をする。男性は冗談言うなどと言うが、女性は自分事として受け入れることが多い」と述べ、この男女の意識の差が「人生観」への意識の差にも影響している」と語られました。



トークセッションでは、平均年齢73歳のメンバーで運営する「蔵ら」を話題にし、若い身体が弱っていく中でも社会に参加したいという欲求が、高齢者が働く上で大事であることを語られました。トークセッションを終え、樋口さんは最後に、事業を成功させる秘訣は「人づくり・地域密着型起業・地域起こし・地域創成型人づくり」にある、と話すとともに「歩いて買物、近くに仲間、ちよつと稼げる仕事があつて、できる事なら人助け、共に集って、共に飯ぐ、こんな地域に私は老いたい」と歌われました。



大盛り上がりの青森さん(左)とのトークセッション

賀茂地域ではあまり聞くことができない話に、多くの方が興味と関心を持たれたようでした。



多くの方にお越しいただきました。

シンポジウムに参加された方の感想をいくつか掲載させていただきます。

### 寄せられた意見

- ・30年前東京でお話を聞き、そのときには人生80年代が来るという内容でした。あれから本当に80年生きる時代になって、自分の人生も随分変わりました。75歳、これからどう生きたら良いか。今日はお話を聞くことが出来て、ありがとうございます。
- ・貴重な時間でした。パワーもいただきました。終活な

なんてなんのその…まだまだ学び続けます。

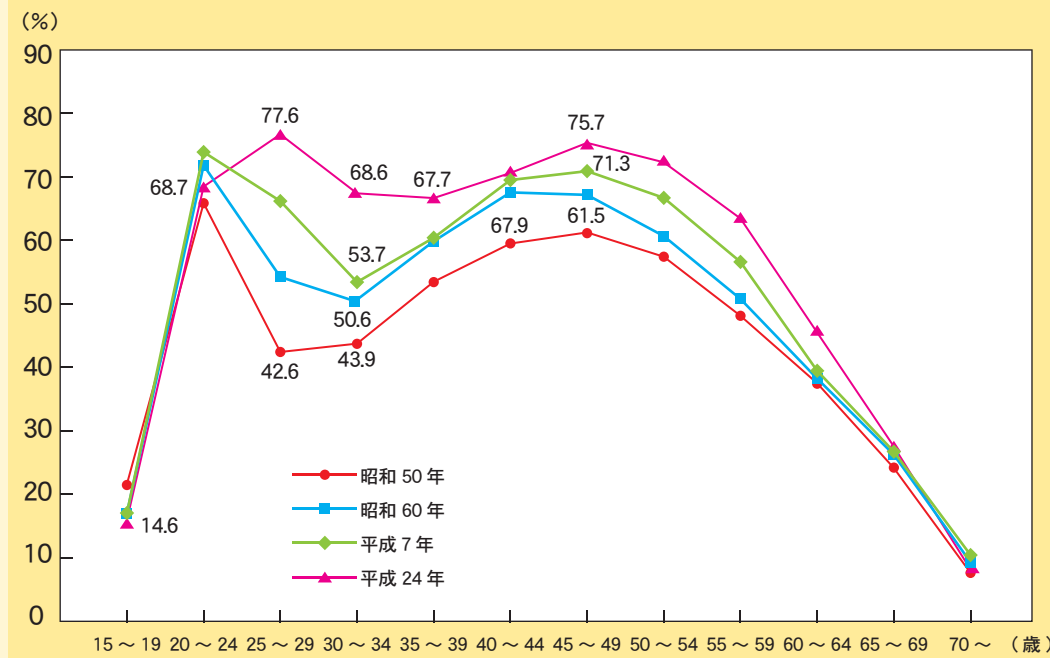
- ・下田ではなかなか、ジャーナリストや評論家達の話を開けないので、一般市民の私は心地良く聞くことができました。
- ・下田ではありえない講演会なので、もつと大勢の女性の方に聞いていただきかったです。
- ・樋口さんのファンです。今日はとても楽しみに仕事を休んで参加しました。
- ・人生の大先輩の生き生きしたお話を聞くことができて良かったです。
- ・生き方、考え方に勇気ももらいました。等

### シンポジウムを終えて：

アンケートには、このような講演の定期的な開催を望む声や、地域の男女で話し合いの機会を持ちたいとの声があり、男女共同参画や生涯活躍への意識がますます高揚したように感じられました。この高まった意識をどのように実際に行動に反映していくか、行政も含めて地域全体で考えていくべき課題であると感じました。

## 女性が長く働く空気をもつと育もう！

左のグラフは、日本の女性の年齢階級別労働力の推移を示しています。



図を見ると、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び

上昇するという曲線を描いています。このように、女性の労働力はいわゆるM字カーブを描くことが知られています。昭和50年では労働力の最低値は25歳〜29歳の42・6%でした。しかし平成24年には35歳〜39歳の67・7%となり、およそ25ポイントもの改善が見られました。しかしながら、結婚・出産を機に退職せざるをえない女性や、非正規の仕事に就かざるをえない女性、そして樋口さんのように職場で差別的扱いを受けて退職せざるをえない女性も未だにいるという点を見逃してはいけません。このような状況を改善するため、平成28年度から女性活躍推進法が施行され、事業主は女性の活躍の状況(採用者に占める女性比率や勤続年数の男女差、労働時間の状況、管理職の女性比率等)を調査・分析し、その状況について随時公表するとともに、目標を立てることとなりました。「女性が長く働く空気」を育むためにも、私たちひとりひとりがこの環境の後押しを意識し、行動していくことが重要なのではないのでしょうか。